

言葉について考えよう

『ブラック企業』とは、極端な長時間労働や過剰なノルマ、残業代・給与等の賃金不払い、ハラスメント行為が横行する等コンプライアンス意識が低く、離職率が高い企業を意味し、20年前から広く使われるようになった言葉です。このような会社を英語では、『evil company』と言い、『black company』は、黒人の経営する会社になるそうです。つまり、『ブラック企業』は、日本独自の言葉です。

この『ブラック企業』という表現に異議を唱える人がいました。4年前に日本に移住したアフリカ系米国人の作家バイエ・マクニールさんです。彼は、「ブラック企業という言葉聞いて、最初は意味が分からなかった。日本で違法な悪質な企業を指す言葉にブラックが冠されていると知り悲観した。もちろん英語にもブラック・リストなどの否定的な表現があり、だからこそ私たちは言葉のイメージを変えようと努力しているのに、日本で逆の状況が起きて悲しい。」と述べています。この言葉に対して黒人の方々から不快に受け止める声が上がっていて、差別を助長しかねないとの指摘も出ているそうです。

日本語にも、黒という色のイメージから否定的な言葉が多くあります。刑事ドラマで黒というと犯人を示し、相撲で黒星は負けを意味します。あいつは、腹黒いやつだという表現もあります。でも、この言葉を使っている私たちは、黒人の方々をイメージしている人はいないのではないのでしょうか。ブラック企業も黒人の方々をイメージしていなかったと思います。しかし、『黒』ではなく『ブラック』という単語には、黒人という意味があるのです。言った方は無意識でも、言われた方はぐさりと心に刺さるのです。

逆に、私たち日本人に関する言葉が悪い意味で使われていたらどうでしょう？やはり、その言葉を問題視し、大きな問題にするかもしれません。大切なことは、言われた方がどのように受け止めるかです。この例だけでなく、日頃使っている言葉が他人を傷付けていないか、時には考えることも必要ではないでしょうか。